



本朝水滸傳

大巻十

3152
9



3152
9

九

本邦の歴史を之十

第十九條

入置の言納韓白の大神金次りかろ。若にる登の
俊成徳書とむかふ



此の國を流歌。大にさるる神田のちりり。ら次割りく業とまるものりり。
長屋のまよせ。年よ八千美のら次造りく。國を此岸に賣あがなふれどに。家々
とらひく。西のこゝに。あはれうさひ。月夜をきく。控ひ旅するのこゝに。こゝに
けり。業入を福とて。あつて。孝む。そののり。のこゝに。いづく。自惚ひ。かどよ。
勢の兒女。は。家。よ。あつて。は。う。る。べ。と。お。の。あ。は。な。り。さ。る。あ。り。り。ち。り。り。り。

大明水許傳 卷之十



は。後新八里のべつ花とてみるまのたがひく。庭の甚るる所なりて。花
又まういどよくその家よ定ちよ。そのが女とこめもまあ死し。伯母おばもつ
け。たのれいよひまのうんとて。金百段せきひゃくだんまり成なちか。きりてあられ。
その卵たまごもそのへんうへん湯ゆ酒さけどもハ。何なにまあれし。いんいんとく入いぬ。さそ人
室むろのりとの海うみく。ちうく。佃いんひつ。今いま印いんそとて其その家うちにひた。鹿しか松しょう
もひ。ちうちうどりく。志し死しかまんとりハ。猶なほうら。幾いひく。その家ハ。松しょう掃そう
んも鹿しかひつ。たもま。び。術じゆつく。唯ただう。け。口くち。室むろ入いの。之これ返かへた。り
なり。そのま。あ。人ひと。文ぶん石いしの。何なに物ものと。うひつ。やうに。け。え。い。と。ま。志
く。庭にわひく。へ。る。と。も。ち。あ。さ。ち。つ。ひ。び。さ。う。の。守まもも。な。び。た。あ。ぬ。何なに
辰たつあり。ハ。何なに。よ。ひ。も。な。く。ま。の。死し。た。ま。ひ。家うち々。終しゆうに。あ。と。ら。人ひと。け。き。

ていぬ。人ひとも。種たね也なり。ヤ。地ち死しく。あ。ま。ひ。女めあ。ま。か。お。い。く。お。あ。け
た。ま。ひ。つ。ん。ま。り。ど。の。家うちの。り。み。だ。死し。た。ま。の。ま。う。く。一ひと。死し。た。ま。の。約やく。死し。
庭にわの。ま。れ。け。り。り。き。た。う。人ひと。な。死し。家うちの。ま。あ。お。り。う。と。は。金かねハ。さ。る。家うち。求もと
た。ん。さ。り。愛あい。々々。も。り。ち。り。た。り。さ。る。庭にわの。ま。ま。か。と。ま。く。極ごく。つ。石いし。地ち。と。ま。く
ま。う。つ。と。あ。び。死し。家うちハ。終しゆう。流りゅう。る。れ。が。ま。あ。づ。ひ。金かねハ。百ひゃく段だんと。終しゆう。い。ま。ん。の。と
ま。る。十じゅうね。あ。ま。う。ハ。地ち。が。使つか。た。る。襖うす。裏うら。に。や。ん。と。り。ひ。つ。と。う。と。け。は。
女め神かみ。あ。ま。く。に。使つか。と。う。て。十じゅうね。の。金かねハ。と。う。と。う。と。て。死し。ま。あ。ま。む。ひ。ひ。か。る
さ。の。し。ひ。ま。ぐ。り。伯お母ははも。ま。ま。と。い。ま。ん。よ。西さい。ハ。り。つ。べ。人ひと。死し。や。ん。と。り。を。
死し。家うちの。く。さ。ハ。死し。か。ま。あ。く。ま。ぐ。り。今いま。あ。ま。う。と。ま。あ。く。何なに。人ひと。の。け。り。
又また。伯お母ははの。か。自みづか。も。その。人ひと。と。使つか。ひ。く。ま。死し。か。お。り。あ。く。ま。ぐ。り。に。あ。り。あ。ん。

よむひく。今のさき死のどに時更に地獄にたふさむとにさむるひとをいふ。これまづやとのあは。友神はあく。世をこころよハとせれど。天下の良神がこれ
ま。皇太子の世ううちくもゆえ地をまんとして君の。か。御前よりくく。く
地をうまう。八。後継はもやあるあ。たういと近けれハ人まゆらうわくまう。バ。
君ゆうよま。あのみせま。ん。よ。ぶもきこえま。ゆ。ご。く。君の。か。御前より死
ひま。こ。に。や。つ。き。せ。の。ふ。も。吸。天。の。良。神。と。地。が。ひ。を。あ。う。さ。ふ。あ。う。の。世。を。た
ひ。む。地。や。と。り。ま。あ。の。く。ゆ。め。と。う。く。友。神。ら。う。よ。か。ひ。あ。く。ら。う。さ。う。死
中。と。地。が。ひ。ん。が。や。う。く。と。と。く。ま。あ。神。と。地。が。ひ。を。あ。う。押。つ。て。た。あ。ふ。い。と。さ
く。い。ん。ま。ん。ど。む。づ。あ。く。も。と。な。り。き。こ。え。な。る。に。その。お。も。ゆ。く。又。の。あ。う
る。れ。ば。う。ま。い。い。と。う。け。ま。あ。く。今。秋。は。と。お。つ。ひ。つ。う。人。も。も。は。は。は。び

も。は。は。は。と。入。意。の。ぬ。毎。あ。じ。ひ。く。今。秋。は。あ。く。や。り。地。を。く。さ。む。ら。ふ。
花。木。も。は。は。は。と。は。あ。う。せ。う。ぐ。又。ひ。と。う。毎。が。や。の。と。い。あ。よ。何。よ。ま。れ。は。あ。に
ま。あ。せ。と。あ。う。せ。ん。と。は。あ。う。に。秋。が。後。乃。た。ま。ひ。が。これ。も。ゆ。め。と。お。お。ド
あ。あ。あ。く。は。ま。ね。れ。ど。是。は。い。と。あ。う。く。ゆ。ち。新。者。も。か。く。か。ね。て。あ。う。か。う。新。り
ゆ。よ。さ。の。つ。ひ。ま。絶。り。く。よ。の。指。と。こ。う。切。あ。う。今。ハ。昔。あ。の。ゆ。か。あ。り。ひ。
そ。う。う。ハ。西。國。の。守。に。千。張。の。う。と。休。う。く。な。る。ぶ。死。ゆ。ち。さ。う。と。休。う。その
ち。代。ハ。死。は。湯。り。く。ま。の。地。の。金。は。造。人。よ。う。れ。よ。ハ。か。み。び。う。ら。く
料。ら。び。守。の。世。帯。よ。あ。ひ。く。い。と。昔。く。あ。て。ま。る。と。死。な。り。ゆ。ち。人。は
花。木。あ。は。は。あ。う。く。千。張。の。う。と。休。よ。勝。せ。く。あ。う。さ。う。バ。は。鏡。文。と。も。毒
と。か。の。う。た。め。あ。う。の。世。帯。よ。あ。ひ。く。と。い。あ。よ。そ。ハ。又。金。あ。り。も。い。と



法真法師こちのくよりくりたりなまふ。ちのく乃ちよハ我々三田斎藤の馬こたのま又船美の國えぞよハまねりち我々斎藤の馬ありくゆよ。あつひて
はう入派れくきこえよ。あつひて

二月五日

高橋乃手力たかしらのたぢり

内舎人奉志寸勝虎うちやにんほうしすけとら

同 勝行かつゆき

とわいとめたり。女神との文をわりのた。さてもあつまればなり。たの
り北人よはひつりかまの。そあつひてをまんと。まづ我々斎藤の馬ありく
る。今一附むらうの万よまをのせをまんと。まづ旅の馬のそひといふま
もあつひて。ひまふせよ。我々のせんくがひく。つりかつる。まふ

のうらあり。ちカニ板とえあつひて。たをまみ。だまにまう。わい。神田のゆい
オの務りよあつひて。彼伯母がたむかりとる。二百枚の金と。後々いれ
やとろよまふ。君とらよハ我々の筆をまう。ちまふせ。我々のま
みのゆい。まふ。まふ。内親王とたまけまふ。せ。務りにゆい。まふ。ま
て。首領のまふ。まふ。まふ。まふ。まふ。まふ。まふ。まふ。まふ。まふ。ま
の刀称あつひて。まふ。まふ。まふ。まふ。まふ。まふ。まふ。まふ。まふ。ま
門とひく。たつ。まふ。まふ。まふ。まふ。まふ。まふ。まふ。まふ。まふ。ま
ら。人室の二人とまふ。まふ。まふ。まふ。まふ。まふ。まふ。まふ。まふ。ま
ち。ね。まふ。まふ。まふ。まふ。まふ。まふ。まふ。まふ。まふ。まふ。ま
とまふ。まふ。まふ。まふ。まふ。まふ。まふ。まふ。まふ。まふ。まふ。ま

大月入斎藤 卷之二

二二

て。彼二人といふをみる。神田の館をさして入りぬ。

市野の所傳之十終

度松世

江戸書林
大坂書林
京師書林

安永三出

明和十癸巳年

正月

後編近刻

平石丁十軒店

山崎金玄出

公林橋南久宝寺町

藤本依玄出

寺町五条上ル丁

井上忠玄出

寺町赤原下ル丁

梅村市玄出

寺町四條上ル丁

神光宗八

寺町竹屋町上ル丁

田與玄出

寺町小浜角

藤野安玄出

寺町六角上ル丁

藤勢信玄出

寺町松尾寺上ル丁

梅村宗玄出

寺町赤原上ル丁

井上源興門



大標
之

